平成２７年度　第１回東広島市総合教育会議　議事録

１　日　時　　平成２７年４月１６日（木）
　　開会１０時００分　　閉会１１時４５分

２　会　場　　東広島市役所本館３階３０３会議室

３　出席者　　（構成員）
　　東広島市長　藏田　義雄
　　東広島市教育委員会
　　教育長　　下川　聖二
　　委　員　　渡部　和彦（教育長職務代理者）
　　委　員　　織田　壽子
　　委　員　　長嶋　香穂里
　　委　員　　京極　秀樹

　　（説明のために出席した者）
　　副市長　　槇原　晃二
　　福祉部長　　和田　幸三
　　学校教育部長　増田　泰二
　　生涯学習部長　大河　淳
　　理事　　信井　充壯

　　（事務局関係）
　　総務部長　　松尾　祐介
　　総務部次長兼総務課長　　大垣　勇人
　　総務課　課長補佐兼行政経営係長　大石　美廣
　　行政経営係　主任　　長尾　竜次

４　議　事　　(1) 東広島市総合教育会議の運営について
　　(2) 東広島市「教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱」について
　　(3) その他

５　内　容
○開　会

○藏田市長あいさつ

○議　事

(1) 東広島市総合教育会議の運営について（事務局説明【資料１】）

＜藏田市長＞

事務局の説明に対し、意見、御質問があればお願いします。

＜下川教育長＞

新教育制度、教育委員会制度になり、初めての総合教育会議を早い時期に開催していただき感謝します。市長と教育委員会が同じテーブルの上で協議をすることは、教育行政を進める上で意義の深いものだと思っています。

運営要綱は当然必要であるが、その前に設置要綱が必要ではないかと思います。確かに、法律により全ての県、市町に設置が義務付けられていますが、東広島市総合教育会議ということでの趣旨、構成員等、この運営要綱以外に必要なところが若干あるのではないかと思いますが、いかがでしょうか。

＜藏田市長＞

要綱の設置については、市民の皆様に理解していただく第一歩であると考えています。事務局から説明があればお願いします。

＜大垣次長＞

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の中に、設置について書かれており、その根拠が法律に直接あるということで、要綱に基づく設置は行わないこととしたものです。

この４月１日から制度が開始され、まだ事例はあまり多くはないですが、岡山県において要綱が示されており、その中では運営要綱とされています。

運営は法律の中で別に定めるということがあり、この要綱は運営についての規定としたものです。

しかし、東広島市総合教育会議という固有名称が必要であろうということで、この会議の名称を第２条において規定しました。

＜下川教育長＞

法律に定められているからということは理解できますが、初めて総合教育会議ができたわけです。市民の皆様も色々と関心を持っておられる方も多いと思います。

この総合教育会議というものは一体どういうものなのか、何のために置かれているのか、どういう人がメンバーなのか、そういう質問があった時に、設置要綱があればこういうことでやっているということが言えるのではないでしょうか。

岡山県の例もありましたが、他県等では、すでに設置要綱をつくられているところもあるので、設置及び運営要綱でも良いのかもしれないが、その辺が少し加えられたら、総合教育会議がこういう形で行われているということが多くの人に分かっていただけるのでは

ないかと思います。

＜藏田市長＞
皆様に諮りたいと思いますが、いかがでしょうか。

＜渡部委員＞
下川教育長の意見に賛成です。基になる規則は決まっており、そちらをご覧くださいという言い方もあると思いますが、市長と教育委員が一緒にテーブルにつくという非常に歴史的な事態です。
その中で、やはり原則はこうだと、東広島市の設置要綱というものを示すことは大事なことで、意義のあることだと思います。

＜藏田市長＞
本当に歴史的なことと言いますか、東広島市にとっても教育の在り方の１ページ目を開かせていただくわけです。他に意見があればお願いします。

＜京極委員＞
行政サイドと教育サイドがタッグを組んで人づくりをしていくという市長の考えもありますし、市民に対してきっちり示すということは大事なことだと思います。私もあった方が示しやすいのではないかと思います。下川教育長の意見に賛成したいと思います。

＜藏田市長＞
市民の皆様に理解の得やすいのが一番だと思います。設置に関して要綱に定めてスタートさせていただきたいと思うので、よろしくお願いします。
他に意見、質問があればお願いします。

＜織田委員＞
要綱第３条の３項に、定例会は４月及び１０月に開催するとしてありますが、何か根拠、理由があるのでしょうか。

＜藏田市長＞
事務局から説明をお願いします。

＜大垣次長＞
年度の初めに、その年度の教育行政等をどう展開していくのかというすり合わせということもあり、４月を設定しています。
また、一般的に１０月の終わりから１１月にかけて次年度の予算に取り組んでいくということがありますので、その前に首長と教育委員会で色々な意見交換をして、予算や翌年

度以降の取り組みについて、同様に調整をしておくということで１０月を設定しています。

＜織田委員＞

わかりました。出来れば、年度末にも設定していただき、一年間の取り組みが分かれば良いと思います。

それから、定例会が決まれば、市民の皆様のご意見など情報を集めた上でこの会に臨みたいと思います。

＜藏田市長＞

事務局の方から何かあればお願いします。

＜大垣次長＞

もちろん予算ばかりではなく、それまでの取り組みについては、行政の方で決算という作業をしていますが、それが秋にありますので、１０月の時にあわせて重要な事項があれば協議のテーマとしたいと思っています。

また、随時必要に応じて開催すべきという認識ですので、よろしくお願いします。

＜藏田市長＞

先ほどの織田委員の発言にあったように、市民の皆様の色々な事例に応じていく可能性も出てきます。要綱に書いてある、特に必要と認める時には定例会を開催する月を変更する、また、臨時で開催する可能性もあるということを汲み取りいただければと思います。

他に意見、質問が無いようでしたら、会議の運営については、ただいまの案の協議の結果のように取り扱っていくことに異議はないでしょうか。

（異議なし）

(2) 東広島市「教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱」について
（事務局説明【資料２】）

＜藏田市長＞

総合教育会議として、まず協議しなければならないのが、「教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱」の策定です。

本市においては、平成２５年度末に「東広島市教育振興基本計画」を策定しており、これを最大限尊重していきたいと考えています。こうしたことを念頭に置きながらも、大綱の策定については、この会議の重要な役割の一つでもありますので、皆様と十分に議論しながら策定していきたいと考えています。

まず、大綱とはどのようなものかについて、事務局から説明してください。

（事務局説明【資料３】）

＜藏田市長＞

委員の皆様には、大綱のイメージが理解をいただけると思いますが、この大綱の策定に係るスケジュールについては、夏頃を目途に大綱の案を作成し、再度、協議をして、遅くとも秋頃には策定したいと考えています。

こうした中、本日はその第１歩ということですので、皆様には、ざっくばらんに忌憚のない意見をいただければと思います。

特に、大綱に盛り込むべき事項は多岐にわたっておりますので、大きくは「学校教育」、２点目には「青少年健全育成と保育・子育て」、そして３点目には「生涯学習と芸術文化」、そして最後に「スポーツ」といった具合に、テーマをその都度区切って意見交換を行っていきたいと考えています。

まずは、学校教育について取り上げていきたいと思います。

グローバル化が進むこの現代社会において、今の子どもたちについては、たくましく今を生き抜いていく力、これをどこに求めてやるのか。根性や忍耐と昔はよく言われていましたが、くじけることのない強い精神力が必要であると感じています。

そうした意味からも、本市の目指す子どもたちの姿を一言で表現しますと「わんぱくでもいい、たくましく育ってほしい」ということです。簡単に私から意見を述べさせていただきましたが、皆様からこういった思い、また、こういったことを入れて欲しいということがありましたら、遠慮なしに発言していただきたいと思います。

＜下川教育長＞

ただいま市長が言われたことは、私も全く同じようなことを思っています。

学校現場が一生懸命取り組んでいる一つの現れかもしれませんが、東広島市の子どもは、学力、体力等について、非常に高いレベルを示していると思います。

これは色々な調査がありますが、年によって大きく上がったり下がったりということではなく、毎年一定レベルはとっています。これがやはり学校力、全体で言えば東広島力ではないかと思っています。

ただし、知・徳・体の部分で言う徳の部分。心をいかに育てていくかということ。そして、いかにたくましく育てていくか。ただ勉強ができることが将来的な目標ではないわけですから、そういう学力をつけることでどういう子どもを育てるか、どういう人間を育てるかといったことが大事なので、そのためには、いかに心を育てるか。そして、いわゆる強い心といいますか、たくましい心、それをどのようにして育てていくかということを、教育長として各学校と共に考えて取り組んでいきたいと思っています。

＜藏田市長＞

特に、強い心とたくましい心は似たようなところがあると思いますが、自分に負けない、あるいは、自分をしっかりもって折れない。今は以前と随分違い、スマホもあり何もかも

ある時代ですから、子どもたちが本当にしっかり生きていくためには、自分自身をある程度コントロールできなければ難しいと思います。

その根底は子どもたちの心の中に宿っているのではないかと思っていまして、教育長が言われたように、心がしっかりしていないと環境対応には難しいと私も感じています。

気楽に話をしていただければと思いますが、長嶋委員、何かありましたらお願いします。

＜長嶋委員＞

心を育てるというところですが、家庭での親との関わりというものが重要になってくると思います。

親御さんも仕事をもって大変忙しいとは思うのですが、生まれてすぐからの親との関わり、長く繋がっていくことで、最近ある色々な痛ましい事件、そういうものにも対応できるのではないかと。苦しい時に最後に頼って欲しいのは親だと思います。そこが中々上手くコミュニケーションがとれていないというところで、すごく心を痛めています。

小学校に上がってからということではなく、生まれた瞬間から、親になった瞬間から、子どもだけではなく、親の教育ということではないですが、そうしたことをこれからしていかなければならないのではないかと思います。

＜藏田市長＞

親御さんの教育ということが随分と今は言われています。やはり、時代の変化でこうなってきたことに対し、国も思いを変えなければいけない。そういう意味でも、この総合教育会議は意味があるのではなかろうかと思います。

今までは国が主導しながら、こうした子どもたちを育てる、こうした教科書、こうした中身ということを言っていましたが、地域には地域の実情、環境への対応、あるいは子どもたちの仲間意識など、随分と変わってきていると思いますから、ある程度地域で育てていただきたいという意味が随分と盛り込まれるのではないかと思います。

織田委員は校長先生としてご活躍いただいた経験からも、思いがあるのではないかと思いますが、いかがでしょうか。

＜織田委員＞

わんぱくでもいい、たくましく育ってほしいという市長の願いは学校も同じです。

子どもたち自身もたくましくなりたいと思いながらも、余りにも周りの者の手が加わり過ぎてたくましさを失ってきているのではないかと思います。学校がたくましく育てたいと思っても保護者の理解を得ずクレームがついたりします。

一人ひとりの子どもにはもっと生きる力があると思います。それをしっかりと受け入れてやらないで、怪我のないように、どうにか安全にというような傾向が強いのではないかと思います。学童保育についても、市長は小学校１年生から３年生まで、志和町、福富町、豊栄町、河内町内の小学校に通う児童は１年生から６年生までということにされています。

今、発達障害の子どもが学校に約６％いるということで、特別にそういう障害がある子

どもに対しては大事なことだと思いますが、それ以外は、家に帰り自分で鍵を開けて留守番をしたり、出かけて行って近所の方々と話をしたり、友達と遊んだりということが大事なのではないかと思うのですが、いかがでしょうか。

＜藏田市長＞

私はそちらの方が賛成です。色々な思いがあるかもわかりませんが、帰って鍵を開け、友達の所へ勉強道具を持って遊びに行くとか、みんなで集まってどこかでやるとか、遊びを兼ねて勉強とか、こういうことも随分忘れてきたような気がします。

子ども同士の心の中で、同じ年なのに何でそんなにできるのとか、何でそんなに格好いいのとか、口には出さないけど子どもたちは随分と感じています。そこで、私も頑張ってみようと前向きに考える子どもと、逆にもうだめだと考える子どもと随分両極端です。家庭でしっかり心が強くなれば、心のコントロールができ、こうしたことに対応できるのではないかと思います。その家庭が今度は地域になり、学校になり、周り全員でと。

いきいきこどもクラブも放課後子ども教室も本当はない方が良いと私も思うのですが、ご両親からすれば、勤務終了時間が遅くなると子どもに帰って一人でやれというのはなかなか大変だと。子どもたちの寄り合う場所を造ってほしいという要望も随分あります。

これが、昔ならそうではなく、親が帰って来るまでにお茶ぐらい沸かしておこうかとかしていましたよね。でも、そういうことも危ないからやめろ、一人でしてはいけないと言うようになりましたが、そんなことは子どもたちも十分わかっているのではないかと思います。

＜織田委員＞

これは以前の話ですが、いきいきこどもクラブで子どもたちが結構荒れていました。それはなぜなのかというと、子どもたちにとっては家の方が良いのです。ある小学校に勤めていました。いきいきこどもクラブが学校のすぐ側だったので、しょっちゅう顔を覗かしていました。

子どもたちは学校のルールの下で生活をし、その後、また異なる集団の中で、何時間か生活しなければなりません。子どもたちのストレスはたまります。そういう中で、子ども同士のトラブルも起こっているというのを親御さんにわかってもらわないといけないと思います。親の都合でいきいきこどもクラブへに行っている子どももいると思います。

できれば企業や職場が子育て中の保護者に時間的なゆとりを与えてもらうと子どもにとって本当の幸せではないかと思います。いきいきこどもクラブができた頃からそのように思っていました。

＜藏田市長＞

学校が終わると子どもたちはどこで遊ぼうかということは自分で考えますよね。グラウンドで遊ぶのか、友達の家に行くのか。ただその枠を外れるとやはり大変なことになる。

そこを地域の人も含めてしっかり見るというのが一番いいと思う時もあるのですが、学校の授業やルールの中から解き放たれた時に、子どもたちが何で発散したいかです。

例えば、何時間も座って授業を受けた後は体をめちゃくちゃ動かしたいのではないかと思うこともあります。だけど、時代がそうさせているのかもしれないが、私からすれば、なぜ学校のグラウンドで遊んではいけないのかということも少しあります。

先ほどの織田委員の発言のように、親の都合とか色々な見方をさせていただいた時に、非常に子どもたちもかわいそうだというところはあると思います。

大学生を預かっていただいている広島大学、近畿大学の教職員の皆様から見ると、同じ１８歳から大学に入ってくるとしても、以前の子どもたちと現代の子どもたちは随分と変わってきたのではないかと思うのですが、いかがですか。

＜京極委員＞

２２年くらい大学の教員をしていますが、２０年前の子と今の子では全然違うと思います。自信をもって自ら行動するというのは経験をしていないとだめです。

小学校の時から個性を伸ばしてやる。スポーツが得意な子はスポーツ。我々の時代はそうだったと思います。そういう環境を東広島市としてどうやって作るかということがすごく大事で、幼稚園から小学校、中学校、高校、大学を含めてそういう仕組みを作れる環境が東広島市にすごくあると思います。総合的に検討して、教育をして、子どもたちを育てるという仕組みができれば一番良いと思います。

昔の子に比べて、今の子はすぐゲームとかバーチャルの世界にどうしても行ってしまいますが、以前の子は勉強したらスポーツしたりとかそういうことがあったと思います。大学でも休み時間にソフトボールをするような子がいなくなっています。こうしたところがやはり問題かと思います。

そういうことも含め、大綱の中に盛り込んでいけたらいいのではないかと思います。

＜藏田市長＞

渡部先生も気付きがありましたらお願いします。

＜渡部委員＞

子どもはやがて成長して社会人となり、国のため、地域のために頑張っていただきたい。

また、一人の人間としてしっかり人生を全うするという長期的な視野から考えないといけないと思います。先ほど市長の発言にありましたが、昔はそれぞれの子どもたちが主体的に親の背中を見て、何とか一家の役割を果たそうとしていた。小学生でもそうしたことを考える子どもが多かった。

しかし、今はなかなかそういう子どもがいないということは、そういうことをしなくても社会なり家庭なりが動いていく、あるいは、そういう環境がほとんどなくなってきているということだと思います。

そうした中で、子どもたちがそれぞれ持っている個性がすごく大事なのですが、一つの

ゴール、統一的な目標に向かって頑張らせようという傾向があります。そこに乗れる子どもたちは良いのだが、そこに乗れない子どもは非常に辛い思いをすると思います。統一的にみんな一緒にこういう風にいきましょうと言った方が、経済的に楽だからそういうことになる。その中で、それぞれの個性を伸ばすためにはそれなりの手当てをしなくてはいけないので大変なのですが、そういうことが大事だと思います。

昔はそれができていたと思います。自由にそれぞれ自分で遊んだり、喧嘩しながら仲良くなったり。そういう中で自分、相手というものを認め合えるということが経験、体験できた。そういうところがなかなか無い状況の中で、本市ではそういうことも含めて、そういう場を提供できるような環境づくりということが大事だと思います。

それと、例えば、スポーツ、和文化の実践などの体験的な教育環境の中で、掴み取ってもらえるといいますか、個性を伸ばせるということができるのではないかと思います。

他の大都市に比べれば東広島市は恵まれていると思います。大学が１８万人程の市の中に４つもあり、教育系の大学もありますので、そういうところも活かしながら子どもたちの個性を伸ばすということが大事だと思います。

もう一つは、知育・徳育・体育の中の徳育です。東広島スタンダードとして、あいさつ、返事、言葉遣い、履物をそろえるといったことを目標にしています。

その中で、あいさつを形式的にするのではなくて、心からできるような子どもを育ててほしいと思います。行動というのが非常に大事だと思っています。

＜藏田市長＞

織田委員の発言にもありましたが、家庭の教育がしっかりすればということをいつも言われるのですが、両親とも仕事で忙しいとか、何でこうバタバタしているのかなというのも少しあります。もっと子どもたちを大らかな目で見てやると、すごく違うのではないかと思うのですが、若いお父さんお母さんは仕事に追われて自分のストレスが溜まっているのではないか、というところもあるような気がします。

そうした点でも子どもたちの行動を全て見ていますと、家庭の問題が随分あるように感じます。そこにきて今度はいじめが出てくると。このいじめの対応も色々な見方をされるのですが、以前はいじめがあってもその輪の中でしてはいけないと言う子がいた。今はそれを言わないのが美徳になっているような、子どもたちの世界でも分からないようなところがあります。

いじめということについて方向転換しますけど、委員の皆様は随分と子どもたちを見てこられていますが、要因というものがあるのでしょうか。なぜいじめが起きるのか。

＜長嶋委員＞

運動会の徒競走などで順位をつけない形になっているように思うのですが、結局みんなが同じであることにするというか。親の方としても、みんなと一緒であると安心というところがあると思います。

だから、そういう親の思いが子どもにも影響して、それからはみ出してしまう子どもた

ちをいじめの対象にしたりということにもなっているのではないかと思うのですが。

＜下川教育長＞

今の長嶋委員の発言についてですが、確かに、運動会等で順位をつけないという時代もありました。

それぞれ、子どもというのは勉強ができる子がいればスポーツができる子もいるし、その他にも色々な素晴らしい面を持っている子もいる。そこを活かすというところで、順位をつけないとか、皆同じでないといけないとか、今はそういうことをしているところはないと思います。少なくとも東広島市の学校は運動会でも１番、２番、３番という形で順位をつけています。そうしないとそこで輝く子どももいるわけですから。絵を描く才能がある子がいれば、スポーツができる子もいるし、勉強ができる子もいる。

そういうところを大事にしていきたいと思っています。

＜長嶋委員＞

ちょうど私の子どもの時代がそういう感じだったので。ただ、やはり順位をつけることで、あの子はこういうところがすごく良いと認めたり、自分はそこではダメだけれどもこっちではあの子には負けないという心を育てることで、強い心が育っていくのではないかと、ずっとそう思っていたものですから。

＜藏田市長＞

今、色々なお話しの中で感じることは、日本の風土として、これ以上やったら風が悪いだろうとか、恥をかいてはいけないとか、そういうことを言われてはいけないだろうというような、何となく今までの日本文化がそういったことの後ろ盾にあって、破目を外せない、あるいは、そうしたことが成長させてくれるといったことが随分あったように思います。

そうした面が随分薄れてきているような気がするのですが。

＜織田委員＞

秋田県の学力が高い要因の一つとして、三世代家庭が多いということを伺っています。おじいちゃんやおばあちゃんから色々なことを聞きながら、東広島市やこの地域、自分たちが住んでいるところではこうだよ、ああだよというところに道徳性のようなものがあると思います。保護者も家におじいちゃん、おばあちゃんがいれば、少々遅くなっても、安心して仕事に力を入れることができるということもありますので、三世代での家族というものも奨励してもらいたいです。

＜藏田市長＞

三世代家庭も非常に良いと思います。また、家庭には家庭の素晴らしい歴史というか、そういうものを皆持っていらっしゃるので、あるいは、地域の文化とかそういったものを

継承していただきたいのですが、なかなかそういったことが難しい。

例えば従来からいらっしゃる方はそういうことを思っていると思うのですが、そうでない方もいらっしゃるわけです。その人たちから見れば、子どもの居場所がないと。では居場所がないから本市でつくりましょうということになる訳です。ということで、つくらせていただいたものが青少年センターであり、色々な施設です。

親御さんは子どもがそこへ行き、おとなしくしていればいい子にしていると思っていらっしゃる。ところが、子どもからすると決してそうではないと思います。特に、小さい子や中学生で一番複雑な時期の子などは、そうしたことが非常に厳しいのではないかと。

その辺りで気付きがあればお願いします。

＜京極委員＞

子どもの時に一緒に遊ぶ機会が少ないと思います。今は遊びでもゲームの中で遊んでいて実体験がほとんどない子どもたちが非常に多くなっています。スポーツであるとか文化であるとか、学内でいうとクラブ活動とか、そういう中で実経験をできるだけさせるように、小学校、中学校、地域も含めてした方が良いと思います。

現実に東広島市はかなりやられていると思いますが、その辺りも含めて体系的な取組み、仕組みを作ることができれば良いと思います。

先ほどと同じような話になりますが、家庭まで中々入っていくことができないので非常に難しい話です。そういう面では親御さんのための教室みたいなものが必要なのかもしれない。教育に関する講演であるとか、文化的な講演というものを含めて親御さんの教育、あるいは子どもと一緒に楽しめる教育というかそういう場が必要かと思います。

一つの例として、大学では親子で楽しむ椅子づくりということをしている先生方がいます。そういう場を多く作っていくことによって、少しでも元気な子ができればいいと思います。

＜藏田市長＞

子どもたちに思い出がすごく少なくなっていると思います。

また、子どもたちだけでなく、高齢者になってもいつまでも元気でいたい、思い出もつくっていきたい、仲間と楽しくやりたい。そうすると今度は色々なものを学びたい、楽しみたいという仲間が必要になるわけです。

本市は生涯学習に向けて取り組んでいるわけですが、生涯学習の中でも子どもたちと一緒にやるものもありますし、大人だけでやるものもあります。渡部先生に考案していただいた健康体操などを子どもたちが大人の中に入ってきて一緒にやっていただきたいなと思います。そういった点も生涯学習の中で取り入れ、また、生涯学習に対しての皆様の思いがあれば。特に渡部先生に話をしていただきたいと思うのですが、いかがでしょうか。

＜渡部委員＞

今回、教育委員会制度が変わったことも、きっかけはいじめ問題があったわけです。このいじめというのは子どもばかりではなくて、社会人にもあります。広島大学の教育哲学

の先生は、いじめの問題は親がいじめられているということが大きな原因の一つだと言っておられた様に記憶しています。

なかなか特効薬というのは無いと思いますが、話の中にもありましたが、子どもに生きる力をつけることを家庭だけにお願いするのは難しい問題があります。家庭の中でストレスが溜まって、そのうっぷん晴らしということで暴力沙汰になったり、また、最近ではインターネットでいじめをするような陰湿なことが出ていると伺っています。

これは、もう一度よく原因を考える必要があると思います。まずは、お互いに話し合い活動を共にする、あるいは世代間の活動も交流できるような、そういう中で、色々な生き方、考え方があるということを子どもながらにもわからせるということが大事なことです。

また、先ほどから話題になっていますが、いわゆるフィクションの世界にはまり込んでいる。ゲームセンターに行くと夢中になって色々とやっています。ゲームのディスプレイというものは精巧に出来ていて、そこに居ながらにしてオートバイとか車とかスキーとかができます。でもそれはみんなフィクションです。実体験というものがなくなっていくことが大きな社会的なリスクだと思います。

大学でも、私は自分で色々なものを組み立てて実験装置を作っていたのですが、今時そんなことをやる学生はほとんどいません。部品が壊れたらすぐに交換する。変なデータが出たら自分のせいじゃない、ソフトが悪いと言う。そういう社会です。これがこれからの大きな問題になってくると思います。

だからこそ、子どもの時代にしっかり体感的な学習機会を提供することが大事だと思います。健康体操もその一助になれば大変うれしいですが、もっと色々な多様な予見を実体験させるということが大事ではないかと思います、

＜藏田市長＞

本市も子どもたちに色々な体験をしてほしいということで、例えば、音楽ではジュニアオーケストラを作らせていただき、子どもも大人も一緒に共演しながら、あるいは共に色々な作品を作るということを随分しています。

子どもたちがそこで一番感じているのは、初めての体験が多いということです。ですから、家庭であまりやっていないのかなということもありますが、そのような中で本市も芸術文化ホールを新築しており、将来は中央生涯学習センターの跡地の活用も考えなければならないのですが、とにかく、本市が目指しているのは色々な幅広いジャンルを、文化から芸術、芸能すべてのものを今の子どもたちにできるだけ吸収してほしいと考えています。

先ほど京極先生の発言にありましたが、色々な公演等からどんどん吸収しながら、子どもたちの成長、そして、心の支えとなるものを何か見つけてほしいということが本心にあります。

そして、このホールで自分たちも活躍できるようになってほしいという思いでしていますが、ホールの建設に当たり、色々な意見があるかもわかりませんが、大金をかけてやっているではないかとか、あのようなホールが要るのかと言う方もいます。

しかし、ホールがあることによって、街の中心街でイベント、公演といった様々なこと

ができることをこの施設が高めているという意味も含めていただかないと。ただ単にお金をかけて作っているだけではないのです。

高齢者の方が生涯学習とよく言われますが、私は生涯学習というのは子どもの時から学ぶことに意味があると思います。子どもも一緒にやればすごい力が出るのではないかと思いますが、教育長いかがでしょうか。

＜下川教育長＞

先程から話に出ている、子どもの実体験が不足しているということは、全くその通りだと思います。地域の中で、子どもが地域の人としっかりと関わりができるようなことを考えていかなければならないと思います。

例えば、正月明けにとんどなどの行事をよくやります。私の住んでいる地域でもやりますが、作るのは大人ばかりで、子どもは全く参加しません。子どもはとんどを焼くときに少し来て、少し居たらすぐに帰ってゲームをするというような感じです。作る時から子どもたちも一緒にしていけば、楽しみもありますし、こうしてやるのかということの、いわゆる技の伝承にもなります。そういうところをもっとこれからしていかなければいけないということを感じています。

それから、芸術文化ホールに加えて美術館を建設するということで、これから構想を立てていくわけですが、美術館は絵を鑑賞するということも重要な役割でありますが、そこの中で、例えば、子どもたちが絵を書く、物を作るという色々な体験の場も考えていくことが必要だと思います。

子どもたちは学校でも絵を書いたりする時にいきいきとしています。子どもたちが実際に体験できる場をいかに提供していくのか、また、指導者をいかにお願いしていくのかということもこれからもっと考えていかなければならないと思っています。

＜京極委員＞

モノをやる時には施設と指導者が必要です。芸術文化ホール、あるいは、美術館にしても本物に触れる場を提供するというのは東広島市ほどの市になると必要だと思います。

そういう中で子どもたちも育っていきます。我々でもすごく影響を受けます。本物に触れさせる場を与えてあげるということはスポーツも同じだと思います。

与えてあげる場と指導者と仕組み。この仕組みがすごく大事です。そこに市民の方をどのように取り込むかということが大事で、その中に子どもたちも自然に取り込まれていくのではないかと思います。そういう仕組みが上手につくれたらと思います。

なかなか大変だと思いますが、東広島市はオーケストラなどでも実績があるわけです。そうしたものを沢山作ることによって、いじめなども段々と少なくなってくるのではないかと思います。

＜藏田市長＞

施設と指導者と仕組み。市民の皆様から見ると施設を造ることだけしていると見られが

ちなので言われたのかもしれないのですが、やはり、骨組みを作った以上は肉づけをどうしていくのかということをしっかりとやっていかなくてはいけない。

先ほどスポーツの話に少し触れましたが、２０２０年には東京オリンピックがあります。私がスポーツの世界はすごいと思うのは、少々の短所は目をつむり、それよりも良いところを伸ばしてあげるということです。だから、子どもたちの悪いところを叱るのではなく、もっと良いところを褒めて伸ばしていくことも必要なのではないかと思います。

スポーツは大体、良いところを伸ばしながら悪いところをカバーしていくことでトータル的に点数が上がったり、あるいは体力的に伸びていったりということがあります。世界に通用するアスリートになるためにも、悪いところより良いところを伸ばしていくというのが一番だと思います。

そうした点では、小学生でも中学生でもその子がどんな才能を持っているか分からないところがあります。スポーツは出来なくても絵を描かせたら、書道をさせたら、あるいは他の芸術的な才能とか、機械的な才能とか、どのような才能があるかわからないものです。

特に、スポーツに関しては、こういう良い方向を伸ばして成長させていくのも一つの良い手段じゃないかと思います。その辺りで何かありましたらお願いします。

＜長嶋委員＞

スポーツに関して、小学生に上がる前の子どもたちに幅広く色々なスポーツに触れる経験ができる教室、機会というものを沢山作っていただきたい。その中で、自分の向き不向きを少しずつ感じて、自分がやりたいものに進んでいけるような環境を作っていただきたいと思います。

あとは、親子で体験できるようなものを沢山作ってもらい、親子のコミュニケーションの一つになればと思います。是非そういうところをつくっていただければと思います。

＜藏田市長＞

先ほど、渡部先生のことに少し触れさせてもらいましたが、できるスポーツ、できる運動からやろうとよく言ってもらっています。設備は出来たけど指導者と仕組みがどうなのかというところは、私たちも渡部先生におすがりするようになると思うのですが、そういう面を少し話していただければと思うのですが。

＜渡部委員＞

今の高齢者の方々にはゲートボール等が盛んですが、今の子どもたちが７０歳、８０歳になった時には、水泳やビリヤード等、色々なスポーツができるようになると思います。

なぜかというと、今の子どもたちはそういう訓練を受けているからです。今の高齢者の方々は残念ながらそういう機会がなかったのでできないわけです。そういう意味で、生涯スポーツといいますか、生涯体育というのは、まさに幼児、小学校、中学生あたりの時に決まってしまいます。

そこで、それぞれの地域性があるとは思いますが、東広島市の場合には、陸上も出来る

し、少し郊外へ行けばスキーも出来るし、非常に恵まれた環境ですので大いに子どもたちにそれぞれ自分に合ったスポーツをやってもらいたいと思います。

それから、先ほど話が出た施設と指導者です。この指導者というのは非常に重要です。中学生、あるいは小学校の高学年になるとトップのスキルを持っている子がいます。体操などは特にそうです。そこで本物を教えるということがすごく大事です。

音楽もそうですがスポーツの世界も本物を教えるというのが大事で、その子に才能があればトップアスリートにもなれますし、あるいは将来も楽しめます。

そういうことがありますので、できれば学校教育の中、放課後、地域の中でそうした仕組みを作っていくことがこれから非常に大事だと思います。

＜下川教育長＞

私もそのように思います。東広島市の子どもたちの体力が非常に優れているということは体力テスト等で明らかになっています。

ただし、これには課題がありまして、いわゆるスポーツに親しんでいる子、そういう能力の高い子とそうでない子の差が非常に大きいのです。スポーツする子はするけれども、全くしない子もかなりいるというところで、確かに学校を見ても、休憩時間に遊ぶ子はどんどん遊ぶが広い運動場があるのに遊ばない子は全く遊ばないということがあります。それは遊び方を知らないということもあると思いますが、今は学校でも意図的に遊ぶ場を作っています。

例えば、昼休憩でも、普通は２０分しかないが、今日は掃除をしなくていいからその倍の４０分ほどとってみんなで遊びましょうと。その時は先生も出てやりましょうという形で、そういう風にすると本当に子どもは喜んでやります。

今のは遊びですが、そういう中で段々とスポーツに親しむというようなことの、体を動かすということの楽しさ、爽快さというものを味あわせていくような、そういう体験も作っていかないと、二極化したままになると思います。進んでいる子はものすごく進んでいる一方で、全くそういうものに縁がない子どももいますので、そこは大きな課題だと思っています。

＜織田委員＞

親がどれだけどのスポーツに関心を持っているかで子どもも違ってくると思います。少年野球など、親が土日にずっとついて行動しなければならないというような状況があります。どちらかというと家庭がそういう方向に向いてない、関心がない子どもというのは置き去りにされます。

また、それぞれの体験にお金がかかったり、指導者がいなかったり、場がなかったりということがあります。できればもう少し広く、お金をかけずに、例えば、地域センター等で子どもたちが色々な体験ができ、自分の良さを見つけることができるような取組みも考えていただきたいと思います。

ある小学校では、学校週５日制になってから土曜日に塾を開いています。教員も世話す

る人も準備等で大変ですが、子どもたちはとても喜んで来ます。田植えをしたり、餅つきをしたり、しめ飾りをつくったりと色々なことを体験します。どの子も無料で参加できます。色々な体験を通して子どもたちは自分の良さが見えてくるのではないかと思います。

＜渡部委員＞

私はトップアスリートの世話をしてきた経験がありますが、一方、元々身体的に障害を受けている方もいます。そういう子どもたちは、スポーツをやりたいという気持ちがあってもなかなか体が上手くいかないということがあります。そういう子どもたちのためのスポーツとして、例えば、吹き矢やダーツ等、色々なものが考えられますが、そうした方たちに対するスポーツのケアといった場を考える、あるいは支援をするということも大事だと思います。

本市には、障害をお持ちの方が運動できるようにということで、「スポーツ交流センターおりづる」といった施設もあり、水泳もできるようになっていますが、そういう活動もきめの細かいところができれば良いと思います。

＜藏田市長＞

教育長そういうことも考えましょう。

例えば、錦織選手がテニスで活躍すると、テニスがかっこいいと皆テニスにいく。サッカーブームになると皆サッカーに行く。それが良いところもありますが、自分たちが出来るスポーツ、そしてまた自分が一番楽しめるスポーツ、やはりこれが一番必要ではないかと思います。

スポーツの世界というのは、例えばテニスではプレーは一人ですが、一人ではゲームはできない。すると仲間が必要なので相手のことも考えるようになる。これがスポーツの良さです。自分が成長する、相手も一緒に成長するというのがスポーツなので、相手への思いやりも随分出てくるのではないかと思います。

先ほど渡部先生の発言にあったように中学生でもプロのレベル、アスリートのレベルに達している子がいます。でも自分ではそれが分からない。指導者がいないからわからない。世界的なレベルも分からない。それでそのままやっているのです。それで高校生になってやめてしまうという子が随分いる。

例えば、プロ野球選手が子どもたちの野球教室に来て、子どもたちと一緒にプレーして色々な話をしてくれます。プロの世界はこれだけ厳しい、だけど、これだけ楽しいという話をしてくれます。これに触れるだけでも子どもたちにはすごいことなのです。

やはり、アスリートに触れられるというのは、特にそのジャンルに興味のある子どもたちにすればすごく気持ちも高まり、そこで大きな目標ができるのではないかと思います。

先ほど教育長の発言にあったように、学力も体力も全体としては良いけど、できる子とできない子の差があります。できない子が楽しめるようにレベルアップする。できる子はアスリート的な立場でもっと伸ばしてやる。そうすると同じ年でどうしてこんなに違うのかということを子どもたちは感じてきます。自分たちにできることは何かないかなという

ことを友達同士で考えるようになります。考えさせてやることも東広島市の子どもたちに力をつけさせる良いチャンスではないかと思います。

時間が押し迫ってきましたが、委員の皆様からこういった中身も少し話をさせてほしいとか、これは少し盛り込んでほしいというようなことがあればお願いします。

＜渡部委員＞

文化のことで、要望といいますか、この前、安芸国分寺歴史公園ができましたが、あそこでは野球をしてはだめだ、何をしてはだめだといって、散歩するくらいしかできないのですが、ただ、見ていると歩いている人も少ない。何かこう、文化の一つの中心地みたいな計画を立てなくてはいけないのではないかと思っています。

去年、三ツ城古墳では、光の宴というイベントがあって、なかなか沢山の人が来られて非常に良かった。

将来計画というのがあれば、また示していただければと思いますが、西条駅に近くて素晴らしいところだと思います。公園としては良いのだが、もう少し本市ならではの計画を考えなければならないと思いますので、よろしくお願いします。

＜藏田市長＞

安芸国分寺歴史公園は面積も広く少し勾配もあります。当時、あの場所を選ぶために色々な調査をされているみたいです。繁華街から少し離れたところ、災害に強いところ、少し傾斜地があって見晴らしが良いところということを全部条件に盛り込んであの場所に造っているわけです。

だから、中国地方でも、広島県でも、あの場所しかないという風にみられています。やはり地の利が随分と良いのではないかと思います。舞台をつくって薪能でもやりますか。やはり、文化的なものを続けていきたいですね。

＜渡部委員＞

最後に一言。広大マスターズで独自に講演会を企画しておりまして、教育委員会文化課に協力していただき、国分寺の出来た背景、また、埋蔵文化財としても価値あるどういうものが出てきたのか。６月１２日に第１回の講演会をそのテーマでやるということにしております。一般市民にも参加して頂きたいと思っています。無料で参加できるようにしています。よろしくお願いします。

＜藏田市長＞

木簡で書いてあるものは、日本で一番古いのではないかと言われるようなものが出ているみたいです。ですから、やはりそれだけの歴史があるということは、もっと大事に接しなければならないのかと思います。

(3) その他

＜藏田市長＞

議事の３は特に予定しておりませんので、もし、皆様からこれだけはというような意見がありましたら、伺わせていただく時間にと思っております。いかがでしょうか。

＜京極委員＞

教育振興基本計画がありますが、市民の皆様が見た時に分かりやすくないとだめだと思います。文章が沢山あって分かりにくい。大学では予算を獲る時などには、一枚の紙に書いて何をやるのか分かるものを、といつも言われています。東広島はこんな風になるというところがもう少し分かりやすい絵を、ロードマップも含めてつくっていただくと、もっと市民の皆様が、やってみようと思うようになるのではないかと思います。少し大変かもわかりませんが努力していただきたいと思います。

多分、総合教育会議はそういうところが大事なところだと思います。教育委員会と行政がタッグを組むということが大事だと思いますので、この絵をもう少しわかりやすくしていただければありがたいなと思います。よろしくお願いします。

＜藏田市長＞

主役の目は市民ですから、市民の皆様に分かりやすくということですね。

今日のこの会議の中身も東広島の将来を担う子どもたちが中心であり、そのために教育をどうするのか、中身をどうするのか、様々な環境づくりをどうするかということです。その関係で意見があればお願いしたいと思います。

＜織田委員＞

先ほど三世代家庭を奨励してくださいと言いましたが、２０万人都市になるとそうはいかないと思います。

今も、核家族で子育てに不安がある方が沢山いらっしゃいます。若いお母さんにこんな子どもに育てましょうと乳幼児期にしっかりアドバイスしてあげると、子育ての不安が少なくなるのではないかなといつも思っていますので、よろしくお願いします。

＜藏田市長＞

こんな子どもにするために、という中身があったら良いかもしれないですね。アスリートにするために、科学者にするためにとか。子どもの好きなところを伸ばしてやれば、自分たちの道はおのずと開けて来るのではないかと思いますので、そちらの方も中心的にやらせていただきたいと思います。子育ても何かにこうバタバタしているような感がしていますが、現在生活している若いお母さん方は厳しい時代だと思いますので、少し手を差し伸べてあげたいと思います。

＜織田委員＞

余分ですが、矯正施設へボランティアで行っています。

子どもたちと面接をしている時に、これが親ですかというようなひどい関わりをされていても、お母さんはやはり大事な人なのです。子どもたちは、乳幼児期のお母さんをずっと心に抱いています。どんなひどい親でもお母さんなのです。心の支えなのです。

それをどこかで伝えてほしいなと思います。

＜藏田市長＞

何か一番重たい言葉ですね。ありがたみというものも分かってもらわないといけないし、支えも必要です。

本日は法改正された後の初めての総合教育会議ということでしたが、教育委員会の皆様と意見を交わす機会をいただいたことについては、大変有意義でありがたく思っています。

記念すべき「１ページ」、「第一歩」が進んだのではなかろうか思いますので、これを基に大綱の策定も進めさせていただければと思っています。

最後に、次回の開催を先ほど申しあげましたように、夏頃か秋頃かということで調整をさせていただきながら、途中経過も踏まえてこの大綱の原案が出来次第、またお願いするようになると思いますので、よろしくお願いします。

○閉　会